

社会科学習指導案

単元名「自然災害からくらしを守る」〔学指要領：(3)〕

令和〇年〇〇月〇日（火） 第5校時 〇年教室
高山村立高山小学校 〇年〇組 指導者 〇〇 〇〇

I 単元の構想

1 単元の目標及び児童の実態

	目 標	児童の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 群馬県や高山村の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解することができる。 聞き取り調査や地図、年表などの資料で調べて収集した情報を、図に整理してまとめることができる。 	
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 過去に発生した群馬県や高山村の自然災害、関係機関の協力などに着目し、災害から人々を守る活動を捉え、それぞれの働きと仕組みを関連付けながら表現することができる。 	
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害から人々を守る活動について主体的に問題解決しようとしたり、高山村に対する誇りと愛情、村民の一員としての自覚を持ち、将来の担い手として未来を考え、学習したことを生活に生かそうとしたりしている。 	

2 評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 群馬県や高山村の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、県や村では生活物資など様々な備えをしていること、住民への連絡手段を整えていることなどを理解している。 聞き取り調査や地図、年表などの資料で調べ、情報を図に整理してまとめている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目し、災害から人々を守る活動を捉え、それぞれの働きと仕組みを関連付けながら表現している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害から人々を守る活動について、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことをこれからの社会生活に生かそうとしたりしている。

3 指導及び評価、ICT活用の計画（全9時間：本時第6時） ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	態
1	・群馬県内で近年起きた主な自然災害を調べ、地図と年表に整理する。(あ) (い)	○		
2	・風水害から暮らしを守る人々の働きを考え、単元の課題と学習計画を立てる。(あ) (い) 単元の課題 風水害から私たちのくらしを守るために、だれがどのような取組をしているのでしょうか。			○
3	・江戸時代から昭和時代の県の主な風水害の被害状況やその対策を調べ、表に整理する。(あ) (い) (a)	○		
4	・風水害から暮らしを守る県の取組を調べ、関係図に整理する。(あ) (い)	○		
5	・風水害から暮らしを守る高山村の取組について役場職員に聞き取り調査をする。(a)	○		
6	・災害時や平時の村や関係機関の取組を関係図に整理する。(あ) (い)	○		
7	・家庭の取組について調べたことを基に、自分の家の備えの状況を考える。(あ) (い)			○
8	・これまでまとめた関係図を俯瞰して、単元の課題の答えをまとめる。(あ) (い)	●	○	
9	・マイタイムラインを作り、自分たちにできることを話し合う。(あ) (い) (b)		●	●

*活用する学習支援ソフト等：(あ) ロイロノート (い) Google スライド

*活用するコンテンツ等：(a) 高山村ハザードマップ (b) デジタルマイタイムライン

II 本時の学習（6／9）

1 ねらい 風水害から暮らしを守る高山村の取組について聞き取ったことを基に、災害時や平時の村や関係機関の取組を関係図に整理することを通して、村が様々な機関と連携・協力して人々の暮らしを守る仕組みを構築していることを理解できるようにする。

2 展開

【★ICT 活用に関する事項】

主な学習活動 予想される児童の意識〔S〕	主な発問	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。（5分）</p> <p>＜めあて＞ 高山村では風水害にそなえてだれがどのようなことをしているのだろうか。</p> <p>S：「さとのわ」に避難する場所や食べ物などが準備されていて驚いたな。今日は前の時間に見たり聞いたりしてきたことを図にまとめていきたいな。</p>		<p>○本時のめあてをつかめるように、学習計画表を提示し、前時の調査の感想や本時に取り組みたいことを問いかける。</p> <p>○見通しをもって主体的に学習を進められるように、群馬県の取組をまとめた際に児童が作成した関係図を提示し、本時の関係図に必要な各機関の名称や取組を問いかける。</p>
<p>2 一人一人が、聞き取ったことを関係図に整理したり、図を基にして、めあてに対する自分の考えを伝え合ったりする。（20分）</p> <p>S：災害の情報や避難所への連絡をするために防災無線を使っていたな。わたしたちの家や村中に知らせられていたな。</p> <p>S：前橋気象台の警報や注意報の情報を受けて、役場は消防団や警察に災害の状況を知らせるから、役場を通して矢印でつながるのかな。</p> <p>S：確かに、夜中でも災害が起こったら「さとのわ」から備蓄を出すから、役場から「さとのわ」にも連絡の矢印がつながるな。使命感がすごいな。</p>		<p>○関係図を作成する際の手がかりをつかめるように、「役場」や「わたしたちの暮らし」、「防災無線」、「前橋気象台」等のキーワードをあらかじめ図中に用意する。</p> <p>○関係図の作成を進められるように、取材メモからキーワードを取り上げるよう促したり、関係機関やその取組の関連について異なる視点に気付いている友達を紹介したりする。</p> <p>○役場や関係機関の防災・減災にかける思いを捉えられるように、取材メモを見返すよう助言したり、県の取組をまとめた関係図中の職員の気持ちが書かれている部分を提示したりする。</p>
<p>3 学級全体で、黒板の関係図を基に、村の人々の暮らしを守る仕組みが構築されている意味を考察する。（10分）</p> <p>S：こうして改めて図を見ると、役場を中心に様々な機関が繋がっているんだね。</p> <p>なぜ多くの機関が連絡を取り合ったり備蓄を補いつけたりする仕組みが作られているのでしょうか。</p> <p>S：昔の災害では何百人もの人が亡くなっていたな。今後起こるかもしれない災害の被害をできるだけ小さくするため連携して備えているのだろうか。</p>		<p>○役場が中心となり関係機関が連携・協力していることを視覚的に捉えられるように、児童の発言を基に板書上の関係機関の写真やカードを線や矢印でつなぎ、関係図から気付くことを問いかける。</p> <p>○村と県との連携・協力が気付いていない場合には、村の人口と備蓄品の数量を並べて提示し、村の備蓄が不足する際の県の対応を問いかける。</p> <p>○村が様々な機関と連携・協力して減災に向けた備えに取り組んできていることを捉えられるように、先に調べたカスリン台風と令和元年の台風19号の被災者数を並べて提示する。</p>
<p>4 本時のまとめをし、学習内容の振り返りをする。（10分）</p> <p>【★保存・提出】</p> <p>＜まとめ＞ 高山村では役場が中心となり県や地域の関係機関と協力して、私たちの暮らしを守る仕組みを作っている。</p> <p>＜振り返り＞ S：村は、風水害があった時には、県や地域の人々と協力して私たちの生活を守ってくれていた。次の時間は自分の家の取組を調べる予定だから、家では災害に備えてどんなことをしているか家族に聞きたい。</p>		<p>◆評価項目（知○） ロイロノートの図や記述内容から「役場や県、地域の関係機関の取組のカードと、私たちの暮らしのカードが線や矢印で結び付けられて連携・協力していることを表しているか」を評価する。</p>